

子育てに寄り添うサポート

だがし&休み処

八幡みんなの家

東日本大震災発生後の子育て支援の実例



支援が届きにくい 子育て世帯や団体へのサポート

「だし&休み処 八幡みんなの家」のある宮城県仙台市青葉区の八幡小学校区は、東日本大震災後、建物の倒壊等の被害は少なかったものの、当日は300人ほどが小学校に自主避難をして夜を明かしました。八幡小学校区から車で約20分の沿岸部は、津波・地震による大きな被害を受けました。

乳幼児は夜泣きなどにより避難所や仮設住宅での生活が難しいため、被害の少なかった仙台市中心部の親戚宅や民間アパートなどに避難してくる家庭が多くありました。しかし、親戚宅やアパートに避難した世帯は、支援の必要性を把握されにくく、ミルクやオムツ、服、食料などの支援物資が届くことがほとんどなく、求職活動のための一時預かりなどの継続した支援や情報も行き届かない状況にありました。また、被災後は栄養不足、震災によるPTSD、慣れない環境などから体調を崩す子どもが多くいました。保護者自身も大きな不安を抱えていることから、子どもへの対応ができない、あるいは虐待が危惧される状況も生まれていました。

そこで、「八幡みんなの家」では、子どもが心おきなく遊べ、保護者が相談しやすい場づくりが急務と考え、子育てに必要な物資や食料の配布、サロン活動や一時保育などを実施するとともに、被災範囲が大変広いことから、東京おもちゃ美術館との協働で「移動おもちゃ・絵本美術館」を定期開催し、広域での子どもの不安軽減、遊びを通じた育ちの保障、相談対応を行ってきました。現在は、乳幼児から小中学生、子育て世代、高齢者まで多世代の交流が持て、地域全体で子育てしているという支え合いの絆も少しずつ深まってきています。

子育てを支えるための物資支援

震災直後はライフラインだけでなく、物流もストップしました。そのため、ミルクや紙おむつなど、子育てに必要なものが手に入らなくなりました。「八幡みんなの家」では、ホームページや口コミなどでニーズの把握を行い、必要な物資の募集を行いました。全国から届いた心のこもった品物は、「八幡みんなの家」近隣の避難者のほか、避難所や児童館・保育園、在宅避難者のもとに届けました。

物資支援の方法

■在宅避難者への支援

「八幡みんなの家」にメッセージを貼り出し、近隣で避難生活を送っている方に主に子育てに必要なものをお渡ししました。また、ホームページや口コミによる情報から、支援を求めてこられた方へお届けしました。

■児童館や無認可保育園等への支援

とくに無認可の保育園に支援が行き届いていないのではと考え、仙台市内の無認可保育園数カ所に支援物資をお届けしました。実際に訪問してみると、支援が届いていない施設が多く、たいへん喜ばれました。

■避難所への支援

仙台市内で避難所として利用されていた市民センターに支援物資をお届けしました。食品や日用品などはある程度届いていましたが、おむつ、お尻ふき、おもちゃなど、乳幼児の育児に必要な支援がない避難所がありました。

お届け したもの

粉ミルク、ほ乳瓶、紙おむつ、お尻ふき、ティッシュ、マスク、バスタオル、使い捨てカイロ、ばんそうこう など

※このほか、傘、長靴、レインコートが欲しいというニーズがあり、「八幡みんなの家」で募集したところ、近くの保育園から提供していただいて届けたということもありました。

支援物資の募集

「八幡みんなの家」で支援を求める貼り紙をしたほか、ホームページなどで支援の呼びかけを行いました。

メッセージは「八幡みんなの家」の外にも貼り出しました→



安心してすごせる空間と時間を提供

親戚宅などへ避難した子育て家庭は地域とのつながりがないため、子どもと保護者が安心して過ごし、地域の保護者と情報交換・支え合いができる場が必要です。「八幡みんなの家」では、これまで行ってきたプレイルームの開放により、被災者に限らず地域の子育て家庭の集いの場を開くことにより、避難中の子どもと保護者を地域で受け入れる体制づくりを目指しました。

ママと子どもの居場所

プレイルームというフリースペースの開放により、子どもたちが思い切り遊ぶことのできる場所を提供するとともに、ママたちの交流の場づくりをしました。また、常駐の保育士が育児の悩み相談にのり、保護者の不安を解消するサポートをしています。

実施日時 日曜～金曜日 10:00～17:00

対象 被災した子育て家庭、地域の子育て家庭、地域の方全般

託児のサポート

被災による失業や稼ぎ手の不在などにより、求職活動を行う子育て中の家庭について、無料で一時預かりを実施することになりました。

実施日時 月曜～金曜日の日中帯を基本とし、求職活動状況に応じて実施

利用料 無料 ※被災者の求職活動に係るもの以外については1000円/1時間

リラクゼーション&アクティビティ

定期的にヨガ教室などを開催しているほか、希望により託児つきのマッサージが受けられます。両方とも有料ですが、リピーターの方もいらっしゃるなど好評です。

小学生の居場所

「八幡みんなの家」近隣に住む小学生が、放課後に遊びに来ます。安心して遊べる場、友達と一緒に過ごせる場として、利用する小学生は次第に増えています。最大30名が集ったこともあり、「八幡みんなの家」では、子どもたちの行動に規制を設けず、自主性に任せています。子どもたちは自分たちなりに、コミュニケーションをとりあったり、場所やおもちゃをゆずりあったりしながら過ごしています。

チャリティーイベントの開催 Charity event

避難されている方だけでなく、ママや子どもをはじめ地域の人々を元気づける目的でチャリティーイベントを開催しました。参加料は支援活動の資金として利用しました。

チャリティーフラダンス教室

2011年5月から11月まで月1回開催

親子で一緒にリズムに合わせて体を動かすことのできる教室でした。参加費(1000円/1回)はすべて支援活動に利用されました。



7月 チャリティーバザー

フラダンスの披露、オカリナ演奏、ボランティアで駆けつけたベテラン保育士による読み聞かせ、学生ボランティアによるおもちゃづくりなど、バザーのほかにさまざまな催しが行われました。普段はあまり訪れないパパたちも参加してくれました。



8月 沖縄三線の演奏会

仙台在住の三線奏者が沖縄の曲や、なじみのある曲を披露してくれ、いつも利用している親子連れだけでなく地域の方の来場もありました。



9月 チェロ演奏会

チェコスロバキア在住のチェロ奏者が被災地支援のために来日し、「八幡みんなの家」でも美しい音色を聴かせてくれました。



12月 クリスマス会

「八幡みんなの家」から食事処に出かけてクリスマス会をしました。オカリナの演奏を聴きながら、ゆっくり外食を楽しめる会になりました。



子どもたち向けの遊びの場を提供

避難所ではもちろん、仮設住宅に移ってからも、子どもたちにとってのびのびと遊べる場は多くありません。

そこで、東京おもちゃ美術館から支援をいただき、ボランティアの協力なども得ながら、「移動おもちゃ・絵本美術館」という子どもたちにとって安心して楽しめる場づくりを行いました。

初動期
(4月～7月頃)

4月

5月

6月

7月

東京おもちゃ美術館から木製のおもちゃを中心とした“おもちゃセット”を6組ご提供いただきました。そのうち4組は被害の大きい沿岸部の幼稚園などに贈呈しました。「八幡みんなの家」では、おもちゃセット2組と絵本などを積んだ車で避難所や仮設住宅の集会所に向き、子ども向けの遊び場づくりをしました。まだ物資が行き届いていない時期には、生活に必要な支援物資の提供も併せて行いました。



主なスタッフ

「八幡みんなの家」保育士2名
CLCスタッフ 数名
学生ボランティアほか協力団体のメンバー 数名



中間期
(8月頃～)

8月

9月

10月

11月

避難生活に物資が行き届きはじめてからは、支援物資の提供をせず、子ども向けの遊び場の提供のみとしました。子どもたちが親を離れてスタッフやボランティアと遊んでいる間、保育士が保護者の話を聞くなど、育児に関する悩み事相談を行いました。また、夏休み中は平日毎日遊び場をひらき、小学生を中心に外遊びをして、子どもの居場所づくりにつなげました。

ママからの相談

- 子どもが震災のことを思い出して震える。
- おびえの強い子どもに、どう接したらいいのかわからない。
- 親の気持ちが高ぶるので、子どものケアがおろそかになっているような気がする。
- 自分がしっかりしなければと思うが難しい。……など

2月

1月

12月

3月

保護者同士が気軽にコミュニケーションできる場があるとよいと考え、ママたちのサロンがスタートしました。仮設住宅の集会所では、お孫さんと一緒に年配の方も来てくださり、おばあちゃんによる「餃子づくり講座」をひらくなど、少しずつ世代間交流も進んできています。今後は保護者同士の助け合いだけでなく、地域のなかで子育てを支援できるような環境が望まれます。

おわりに

仙台市の中心部は、不足していたガソリンや食料・生活用品の物流が回復し始めた1カ月後にガスも復旧し、現在では震災前の日常生活に戻ったかのようにみえます。沿岸部に残された津波の爪痕は深く、仙台市民の間に温度差が生まれているのも事実です。定期的で開催してきたチャリティーイベントは、3.11を忘れることなく同じ仙台市民として震災支援活動に関心をもっていただくための機会でもありました。

一方で、被災の少ない地域では、被災者支援をしたいと考えている家庭も多く、「移動おもちゃ・絵本美術館」の運営をお手伝いいただくなどの支援を展開することができました。

活動を続けるなかで見えてきた課題が2つあります。

一つは、在宅避難者の把握です。物資の支援を行うことで、現在困難となっている子育て中の在宅避難者の把握が期待できると考えましたが、当初避難していた親戚宅などから民間アパートや仮設住宅へ移転するなど次々と状況が変わっています。「八幡みんなの家」周辺の民間アパートなどに避難してきた人々の数は200人とも300人とも言われていますが、自治会も地域包括支援センターも正確に把握できずにおり、今後も継続的な働きかけが必要だと感じます。

もう一つは、子どもたちの居場所づくりです。「移動おもちゃ・絵本美術館」の定期開催では、特にプログラムを設けずに、子どもたちの主体性に任せた遊びの場を提供することで、子どもたちは自分で遊びを組み立て、企画をするなかで笑顔を見せ始めました。また、大人も参加できるサロンを開くことで、仮設住宅の住民同士で情報交換し友達をつくる機会となり、小学生だけではなく、未就園児をもつ親子や祖父母世代も輪に加わって、世代間交流の場へと育ってきており、今後も継続開催していきたいと考えています。

避難先での生活など、新しい環境での子育て・子育てはストレスも多く、継続した長期的な支援が必要です。今後も、支援者と支援を必要とする人が直接話し合える場を持つことで、息の長い支援を行っていきたいと考えています。

だし&休み処

八幡みんなの家

〒980-0871 仙台市青葉区八幡1丁目2-7

【運営主体】

特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階

TEL.022-727-8730 FAX.022-727-8737

<http://www.clc-japan.com>